

1人1台端末の利活用に係る計画

令和8年6月 滋賀県近江八幡市

①1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

我が国が目指すべき未来社会として Society5.0 が提唱された。人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会のあり方そのものがこれまでとは劇的に変わりつつあり、予測困難な時代（VUCAの時代）を迎えている。このような中で、本市では「自らが課題を発見・設定したうえで課題を解決していく力」を育成し、激しく変化し続ける社会の中でも夢や志を捨てず持ち続け、学んだことを社会や人生に活かしきり、これからの時代を生き抜くことができる子どもの育成を図る。

ア．自ら課題を発見・設定する学び

児童生徒が自ら学習課題を発見・設定し、必要に応じてICT機器や学習支援ソフト等を適切に選択・活用できる力を育成する。また、学習履歴（スタディ・ログ）を活用することで、自身の学習状況を把握し、自己調整を図りながら主体的に学ぶ態度を養う。

イ．協働的に課題解決に取り組む学び

1人1台端末を活用し、児童生徒同士が意見や考えを共有しながら、多様な視点に触れ、協働的に学習を進めることで、思考力・判断力・表現力等を育成する。また、情報収集・整理・発信等の活動を通じて、情報活用能力の育成を図る。

ウ．ICTを活用した学習支援

デジタル教科書などを実践的に活用するほか、1人1台端末を週3回以上活用することを推進し、授業の支援に繋げる。

また、児童生徒一人一人の学習状況やニーズに応じた指導・支援を実現するため、課題配信・提出、学習成果の共有、教職員と児童生徒との連絡・相談、アンケート等の双方向的なやり取りを推進する。

②GIGA第1期の総括

本市は、「近江八幡市小中学校ICT教育・整備方針」を策定し、平成29年度から5年にわたり、段階的にコンピュータ教室やデジタル教科書、電子黒板などのICT機器の整備を

進めてきた。令和2年度には、小学校に iPad、中学校に Chromebook を整備した。iPad は I C T機器を初めて使用する小学生に対して直感的な活用ができること、Chromebook については、高校や社会人活動を視野に入れタイピング等をキーボードで実施することに慣れるなどを目的に整備し、協働学習の時間をはじめ学校生活の様々な場面の中で、情報収集・理解・発信・共有のツールとして活用した。また、令和6年度からはA Iドリルを導入し、端末の持ち帰りの促進を図ることで、端末利用の向上と協働的な学びの推進、個別最適な学びを進めることができた。

③ 1人1台端末の利活用方策

ア．個別最適な学びと協働的な学びの一層の充実

児童生徒が学習について自己調整し、自ら学ぶ手段や方法を選択できるよう、各校の I C T担当教員で構成した I C T推進リーダー部会を中心として複線型学習について研究を進める。端末活用がスタディ・ログにもなるため、児童生徒は自分の学習状況のデータを参照し、次の学びにつなげることができ、個別最適な学習をさらに推進する。

また、小中学校に統一した授業支援システムを導入することで協働学習の実践事例を共有する。共有のために I C T支援員（外部委託）との連携を密にし、教職員を対象とした研修会を積極的に実施する。

イ．児童生徒の一人一人の学びの保証

授業支援システムやウェブ会議システムを活用したオンライン授業を配信して、学校内の他教室や学校外をつなぎ、さまざまな事情により教室で学ぶことができない児童生徒に対して学習機会を提供できるよう、また外国籍等の児童生徒については言語の障壁を解消するよう支援を行いながら学習できるようにし、誰一人取り残さない学習環境を整備する。

また、心の健康観察については、令和7年度に導入しており、令和8年度中に検証を行った上で令和9年度より小中学校で運用を開始し、児童生徒の心の状態の把握に努め、指導やケアに活用する予定である。

④ 端末・ネットワーク環境の適切な維持管理

1人1台端末環境を安定的に運用するため、端末及びネットワーク機器の適切な保守管理を実施するとともに、計画的な更新を進める。また、情報セキュリティ対策の徹底を図り、個人情報保護や安全・安心な学習環境の確保に努める。